

三股町教育研究所

I	研究主題・・・・・・・・・・・・・・・・	6－1
II	主題設定の理由・・・・・・・・	6－1
III	研究目標・・・・・・・・	6－1
IV	研究仮説・・・・・・・・	6－1
V	研究の基本構想・・・・・・・・	6－2
VI	研究内容・・・・・・・・	6－3
1	教科指導	
(1)	本年度の研究	
2	情報教育・・・・・・・・	6－6
(1)	情報教育の目的	
(2)	セキュリティポリシーの策定	
(3)	情報教育の目標の整理と情報活用能力の系統表	
(4)	情報モラルに関する実態アンケート	
(5)	情報モラル指導計画	
3	校務の情報化・・・・・・・・	6－8
(1)	校務の情報化の目的	
(2)	三股町の現状	
(3)	指導要録・通知票の電子化に向けて	
(4)	指導要録・通知票電子化までの経過	
VII	研究の成果と課題・・・・・・・・	6－10
1	研究の成果	
2	研究の課題	
	〈参考文献〉・・・・・・・・	6－10
	〈研究同人〉・・・・・・・・	6－10

I 研究主題

三股町における教育の情報化の研究
～教科指導・情報教育・校務の情報化の在り方～

II 主題設定の理由

社会の高度情報化に伴い、学校や家庭にも I C T の波が急速に広がってきている。コンピュータや携帯電話はもちろん、様々な I C T 機器が広く一般家庭に普及し、私たちの生活はより便利に、より快適になってきている。学校にはコンピュータ、デジタルカメラ、実物投影機、プロジェクタ等様々な I C T 機器が設置され、校務の効率化や教育活動の質的改善が図られている。しかし一方で、学校に I C T 機器を導入しても、教師がうまく使いこなせていなかったり、多忙感の解消がなかなか進まなかったり、コンピュータや携帯電話によるインターネット上のトラブルに小中学生が巻き込まれたりするなど、情報社会の進展に知識・技能・モラルがついていないという課題も浮き彫りになってきている。このような状況から、文部科学省は「学習指導要領」や「教育の情報化に関する手引」において、教師と児童生徒双方による I C T 活用、校務における I C T 活用など「教育の情報化」をこれまで以上に推進している。

三股町は、藩政時代から郷中教育が行われ、「文教の町・三股」として県内に名を馳せている。町内には小学校 6 校、中学校 1 校があり、小学生のほとんどが三股中学校に入学する。そのため、小中一貫した教育が進めやすい環境にあり、数年前から町内全小中学校の共通実践として「校門での一礼」「黙想・座礼」「無言清掃」などの伝統教育にも力を入れている。

このような中、三股町では平成 21 年に「教育の情報化」を町の教育施策に上げ、町内全教職員へのコンピュータ導入、各学級への児童用コンピュータ・大型テレビの導入等、環境の整備を進めてきた。本研究所においても、町の施策を具現化するために 3 年計画で「教育の情報化」の推進に取り組み始めた。そこで、23 年度は I C T の教育への効果的な利用の仕方、情報教育の考え方の整理、校務の情報化の考え方などについて基本的な理論を構築しながら、24 年度は I C T の実技の向上、指導要録の電子化などを進めてきた。また、授業の在り方を大きく変える可能性をもって実物投影機も 2 クラスに 1 台の割合で設置され(全小学校)、三股町における教育の情報化は確実に進んできたといえる。しかし、未だ教科指導において I C T 機器の活用が日常化にまで至っていないことや指導要録の電子化が完全実施になっていないこと、情報教育の整備・普及が進んでいないことなどが課題として残っている。

そこで今年度は、これまでの研究を一層進めるとともに、3 年計画の最終年度として「三股町の教育の情報化」のあるべき姿を「教科指導」「情報教育」「校務の情報化」の 3 点から具現化し軌道に乗せるために、本主題を設定し研究を進めることとした。

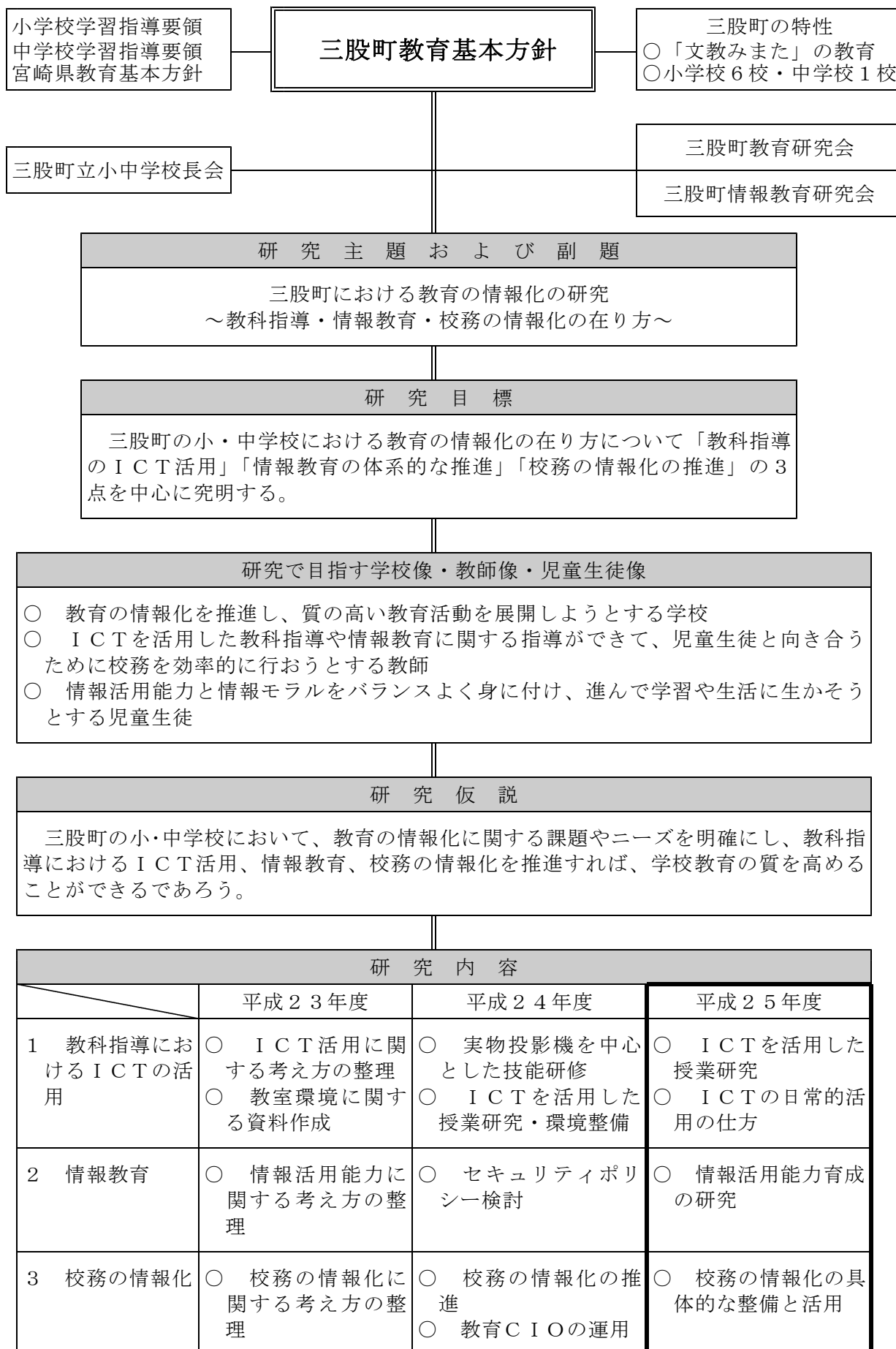
III 研究目標

三股町の小・中学校における教育の情報化の在り方について「教科指導の I C T 活用」「情報教育の体系的な推進」「校務の情報化の推進」の 3 点を中心に究明する。

IV 研究仮説

三股町の小・中学校において、教育の情報化に関する課題やニーズを明確にし、教科指導における I C T 活用、情報教育、校務の情報化を推進すれば、学校教育の質を高めることができるであろう。

V 研究の基本構想



Ⅵ 研究内容

1 教科指導

(1) 本年度の研究

ア 使い方サンプルの作成

使い方サンプルとは、各指導段階、教師のスキルや使用経験に応じ、ICT機器お勧めの活用の仕方を示すものである。これを作成し、より多くの教師にICT機器を効果的に使ってもらうことで、指導力の向上、さらには児童生徒の学力向上を目指した。

先生方、授業の準備、授業をしていてこんな悩み ありませんか。

授業の準備をする時間があまりとれない。

教科書の資料を拡大して見せたい。

→ **ステップⅠへ**

一斉に指導したり、確認したりすることが難しい。

子どもがまとめたノートを見せたい。

→ **ステップⅡ・Ⅲへ**

教科書や資料集に載っていない資料を見せたい。

この資料を部分的に、効果的に見せたい。

→ **ステップⅡ・Ⅲへ**

顕微鏡で見えるミクロの世界を一斉に見せたい。

子どもたちの作品を効果的に見せたい。

→ **ステップⅡ・Ⅲへ**

他にも

- 何度も印刷して紙やインクがもったいないと感じている。
- 技能面(ものさし、分度器、そろばん、裁縫、習字、パレット)の説明が難しいと感じている。
- 子どもたちが使っている教材で、同じように指導がしたい。

上記のような悩みがある先生方の負担を少しでも軽減するために、本研究所では使い方サンプルを作成しました。この使い方サンプルは、活用される先生方の用途に合わせてステップごとにまとめてあります。この使い方サンプルが、先生方の指導力向上、さらには児童生徒の学力向上につながれば幸いです。

【ステップⅠ】… 見せる

① 学習問題や資料を見せる。
② 拡大して見せる。
③ 部分的に見せる。

導 入	○ 既習事項の確認、前時までの想起、(①) ○ 資料・問題提示 (①、②、③)
展 開	○ 児童生徒がまとめたノートや作品の発表 (①、②、③) ○ 教師による解法の説明やまとめ (①、②、③)
終 末	○ 練習問題の提示 (①) ○ 振り返り (①、②、③)

【ステップⅡ】… 工夫して見せる

④ デジカメやPCでSDカードに保存した写真や動画などの資料を見せる。
⑤ ハイライト(※1)・マスク機能(※2)やPIP機能(※3)。
⑥ 鏡に接続(※4)、スライドショーなどを活用して見せる。
⑦ 分割機能(※5)を活用して多くの資料を見せる。

導 入	○ 既習事項の確認、前時までの想起、(④) ○ 資料・問題提示 (④)
展 開	○ 児童生徒がまとめたノートや作品の発表 (⑤、⑥) ○ 教師による解法の説明やまとめ (④、⑤、⑥)
終 末	○ 練習問題の提示 (⑤) ○ 振り返り (④、⑤、⑥)

※1 出力した画像の特定の部分を目立たせたいときに使います。
※2 出力された画像の特定の部分を隠したいときに使います。
※3 表示中の画面上に小さいサイズの静止画像を表示します。
※4 顕微鏡に接続すると、顕微鏡で観察するミクロの世界を大きな画面で見ることができます。
※5 画面上に9つの静止画を表示することができます。

【ステップⅢ】… 他の機器を使ってより効果的に見せる

⑦ 画像や動画(学習問題や資料)を見せる。(必要な写真を撮ってすぐに見せる。)
⑧ 撮った画像の全体や、部分を拡大して見せる。
⑨ 画像に手がきで何度もかき込むことができる。(保存も削除も簡単)

導 入	○ 既習事項の確認、前時までの想起 (⑦) ○ 資料・問題提示 (⑦、⑧)
展 開	○ 児童生徒がまとめたノートや作品の発表 (⑦、⑧、⑨) ○ 教師による解法の説明やまとめ (⑦、⑧、⑨)
終 末	○ 練習問題の提示 (⑦) ○ 振り返り (⑦、⑧、⑨)

【使い方サンプル】

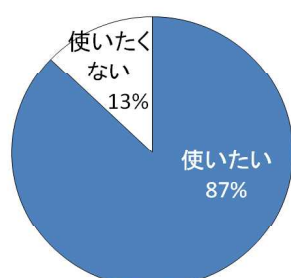
イ 使い方サンプルを使って

(ア) 実物投影機の研修会

各学校で、夏季休業中に実物投影機の研修会を実施した。各学校の実情に応じて、使い方サンプルの説明、よく活用している教師による報告、各学校での設置の仕方と効果的な活用方法について研修した。

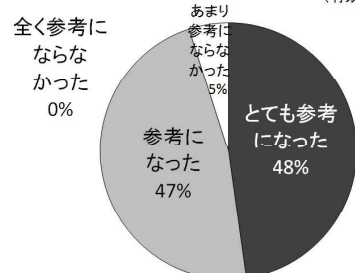
2学期以降、実物投影機を使いたい

(有効回答数=101)



使い方サンプルについて

(有効回答数=101)



【研修会の様子と事後アンケート結果】



(イ) 授業研究会

研究所が提案した使い方サンプルが、児童生徒の学力向上につながっているのかを検証するために、2つの授業研究会を行った。なお、授業後の研究会は、ワークショップ型授業研究会を行った。参観者の学校種、学年、経験年数等から成果や課題について幅広く意見が出ると考えたからである。

a 目的

研究所が提案した使い方サンプルが、児童生徒の学力向上につながっているのかを検証する。

b 研修内容

使い方サンプルが教師の指導力アップにつながるか、また児童生徒の学力向上につながるか、本当に効果的かつ実用的であるかを検証するため、各ステップごとに検証する。

c 授業仮説

各指導段階、指導者のスキルに応じた使い方サンプルを作成し、ICT機器をより効果的に活用できれば、誰でも簡単に、分かりやすい授業が展開でき児童生徒の学力が向上するだろう。

d 授業研究会

(a) 検証授業 1

- 学年 中学校 第2学年
- 教科・单元名 社会科 地理的分野
日本の諸地域「近畿地方（古都の成り立ちと現在）」
- 使い方サンプル ステップ I
- めあて 歴史的な景観の保存と開発について「調和」という観点から多面的にとらえることができる。
- 授業の視点
 - ① 課題1につながる写真の提示の仕方はどうだったか。（導入）
 - ② ワークシートを提示し、発表内容を共有したことは、課題1の解決につながったか。（展開）
 - ③ 合成写真での提示は、京都が抱える課題についてとらえさせることができたか。（展開）
- 成果と課題・考察

【視点①】 導入でズーム機能を活用した写真の提示は、生徒の本時の学習に対する興味・関心を高めることにつながった。

【視点②】 生徒がグループで話し合った意見を発表する際、ワークシートを大型テレビの画面に映した。そのことで生徒同士が考えを共有し、課題の解決につながった。

【視点③】 歴史を感じる街並みの中にカラフルな建物の写真を合成して提示し、生徒に違和感をもたせたことで、建物のデザイン等が規制されている理由をとらえやすくした。また京都が抱える課題（保存と開発、規制と権利）の理解につながり、「調和」という観点から多面的にとらえることができた。

【視点②】 生徒のワークシートや資料を映した際、字の大きさや色によっては見えにくいものがあった。（視認性）

ステップ I では、実物投影機の4つのボタンを使った操作で見せることが主であった。この検証授業をとおして、実物投影機の活用は生徒の興味・関心を高めたり、話し合いの焦点化につながったりすることが分かった。つまり、ICT機器の使用経験の少ない教師にとって、ステップ I は効果的ではないかといえる。

(b) 検証授業 2

- 学年 小学校 第3学年
- 教科・単元名 算数科「重さ」
- 使い方サンプル ステップⅢ
- めあて 重さの単位「g」を理解し、秤を使って正しく重さを量ることができる。

○ 授業の視点

- ① 大型テレビに学習問題を表示することによって、児童は本時のめあてを把握することができたか。(導入)
- ② 活動の様子を撮影した写真データは、形成的評価として活用することができたか。(展開)
- ③ 活動の様子を撮影した写真データは、注意点の確認に役立ったか。(展開)
- ④ 目盛りを拡大して映し出すことは、目盛りを正しく読ませることにつながったか。(展開)

○ 成果と課題・考察

【視点②】 活動の様子をその場で撮影したことによって、児童の実態を把握し、その後の指導に生かすことができた。

【視点③】 活動の様子をその場で撮影したことは、児童が自分の量り方を客観的に見ることができ、正しい量り方の理解につながった。

【視点④】 秤の目盛りを拡大して大型テレビの画面に表示し確認したことによって、児童が正しい目盛りの読み方を理解することができた。

【視点①】 教科書の問題をそのまま映したために、文字が小さく座席によっては見えにくかった。(視認性)

【視点②】 児童の活動の様子を撮影することに注意がいき、個別指導が疎かになった。(機器操作への慣れ)

【視点③】 活動の様子を撮影したデータに目的と関係のない対象物が映っていたことにより、児童の興味・関心がそれてしまった。(提示資料への判断力)

ステップⅢでは、他の機器を使ってより効果的に見せることが主であった。今回は、他の機器としてタブレットPCを使って検証授業を行った。タブレットPCは、持ち運びの容易さや写真の撮影や大型テレビへの投影の仕方など、使い勝手が実物投影機よりもよいということが明らかになった。また、実態に応じて必要な写真を撮影できる即時性は大変効果的であることが検証できた。一方で、このような機器を効果的に活用するためには、使用する機器(タブレットPCやSP等)の操作にある程度慣れておくことが必要であった。また資料として用いる写真が指導する上で効果的なものであるかどうか即時に判断する必要もあるということが分かった。



【検証授業と授業後の研究会の様子】

2 情報教育

本研究所は、平成23年度から教育の情報化に取り組み、教科指導におけるICT機器の活用や校務の情報化を進めてきた。しかし、同時に取り組みなければならなかった情報活用能力やその育成方法が整理されないままに、2年の月日が経過してしまった。その間、体系化した情報教育はなかなか行われず、インターネットや携帯電話による問題も時折発生することになってしまった。そこで本研究所は、情報教育における目標、能力を整理するとともに、教師と児童生徒双方に情報教育に関するアンケートを行い、情報教育における問題点を明らかにすることにした。そして、そこから広く町内の小中学校で利用できる情報教育の指導計画資料を作成し広めていくことにした。

(1) 情報教育の目的

情報教育の目的や身に付けさせたい力を明確にするとともに、三股町における情報教育の在り方、指導の仕方を究明し普及させる。

(2) セキュリティポリシーの策定

校務の情報化を進めていくためには、作成したデータの取り扱いなどセキュリティに十分配慮しなければならない。そこで、各学校のセキュリティポリシーの例を研究所で提案し、それを基に町教育委員会で策定した。

(3) 情報教育の目標の整理と情報活用能力の系統表

文部科学省が発表した「教育の情報化に関する手引」から、本研究所では情報教育の目標を整理し、そこから身に付けさせたい情報活用能力を次のように整理した。

H25. 7. 2 情報教育班 『具体的な情報活用能力の系統表』1ページ版

目標	8要素	低学年	中学年	高学年	中学校
A 情報 活用 の 実 践 力	課題や目的に応じた情報手段の適切な活用	・ クリックやダブルクリック、ドラッグなどのマウスの操作ができる。 ・ マウスを使ってお絵かきができる。 ・ コンピュータの起動・終了が自分で行える。	・ 文字の入力（ローマ字）ができる。 ・ 電子ファイルの保存・整理ができる。 ・ インターネットの閲覧・検索ができる。	・ 電子メールの送受信ができる。	・ 課題を解決するために自ら効果的な情報手段を選んで必要な情報を収集することができる。
	必要な情報の主体的な収集・判断・表現・処理・創造		・ 文字や画像などの情報を収集することができる。 ・ 文章を編集することができる。	・ コンピュータやインターネットを活用して必要な情報を収集できる。 ・ プレゼンソフトを使って発表できる。 ・ 電子メールを活用して調べ活動ができる。 ・ 表計算ソフトを活用して、グラフで分かりやすく表現できる。 ・ 写真を組み合わせて分かりやすくまとめることができる。 ・ 画像をグラフィックソフトで加工することができる。	・ 様々な情報源から収集した情報を比較し必要とする。情報や信頼できる情報を選び取ることができる。 ・ ICTを用いて情報の処理の仕方を工夫することができる。
	受け手の状況などをふまえた発信・伝達		・ 実物投影機、大型ディスプレイを操作して分かりやすく伝えることができる。	・ プロジェクタによる提示ができる。 ・ テレビ会議システムを活用できる。	・ 自分の考えなどが伝わりやすいように表現を工夫して発表したり情報を発信したりすることができる。

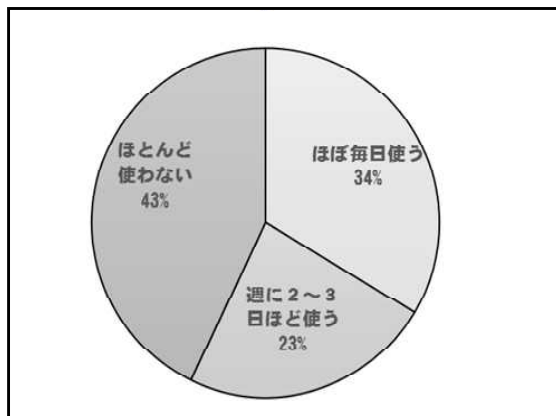
【情報活用能力の系統表 一部抜粋】

(4) 情報モラルに関する実態アンケート

情報モラルの実態を把握するために、児童生徒と教師の両方にアンケートを行った。その結果次のような姿が浮き彫りになった。

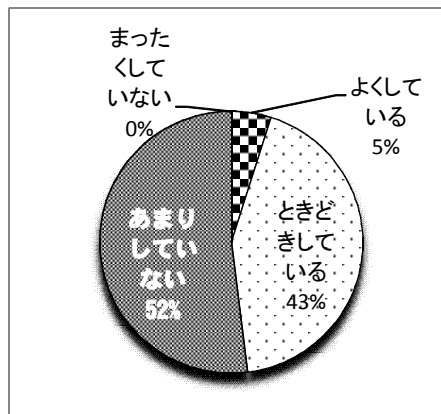
【携帯電話の使用状況…児童生徒】

有効回答数…1176人



【情報モラル指導…教師】

有効回答数…133人

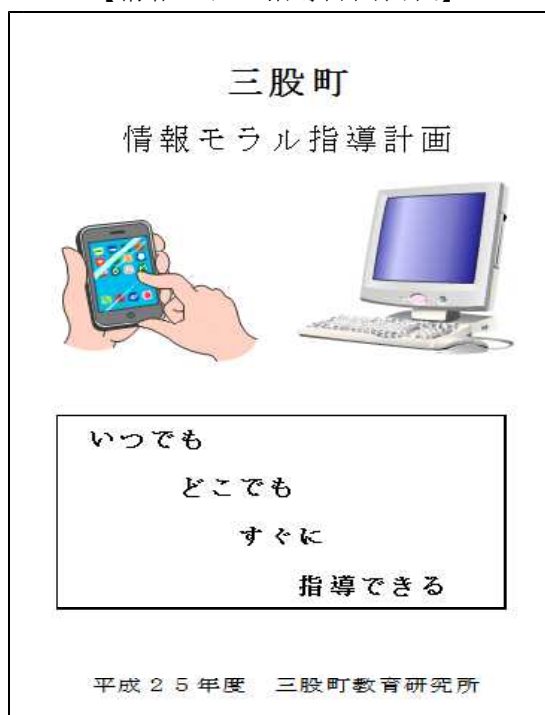


- 多くの児童生徒が、保護者のルールや監視のない中で情報機器を使える環境にあり、インターネットを通じて不特定多数の人と交流をもつ者もいる。
- 多くの教師が、小学校の早い段階から情報教育に関する指導が必要であると考えているが、実際には、「いつ、どこで、どのように」指導すればよいかわからないと思っている。

(5) 情報モラル指導計画

アンケート結果から、三股町内においても情報モラルの指導が急務であることが明確になった。そこで、アンケートをもとに三股町内で特に指導が必要だと思われる部分だけをピックアップし、情報モラルの指導計画を作った。なお、作成に当たっては、各学校のパソコン内にある「事例で学ぶNETモラル」を中心に作成した。

【情報モラル指導計画表紙】



【指導計画一覧表】

三股町における重点指導内容				
大分類	指導したいジャンル	各学年における重点指導内容と、教材の		
		低	中	高
情報社会の倫理	著作権	C-09人の作品を大切にする	C-01写真と肖像権	C-03新機種の利用
	電子メール	B-01文字だけで伝える楽しさや難しさ	B-06チェーンメールへの対処	C-13動画投稿
	電子掲示板・情報活用	C-08ルールやマナーを守る	D-02迷惑メール・シュミレーター	B-06チェーンメールへの対処
法の理解と遵守			B-02掲示板を使う時に気を付けること	A-02なりすまし
			A-06ゲームと現実の生活	I-03よく考えて！それは違法です（ネット・メール）
安全への配慮			A-13情報の信憑性	B-13ネットでの買い物
	ゲームサイト	A-12安全と健康への配慮	I-04ゲーム・インターネットは有害です（ネット）	A-16メール依存

3 校務の情報化

三股町では、「教育の情報化」を教育施策の一つとしており、これには校務の情報化も含まれる。そこで、三股町教育研究所では、校務の情報化について次のように捉えた。

(1) 校務の情報化の目的

- ア 校務の情報化による仕事の効率化
- イ 校務の情報化による時間の確保
 - 児童生徒と向き合う時間の増加
 - 教材研究、授業改善の時間の増加と授業の充実

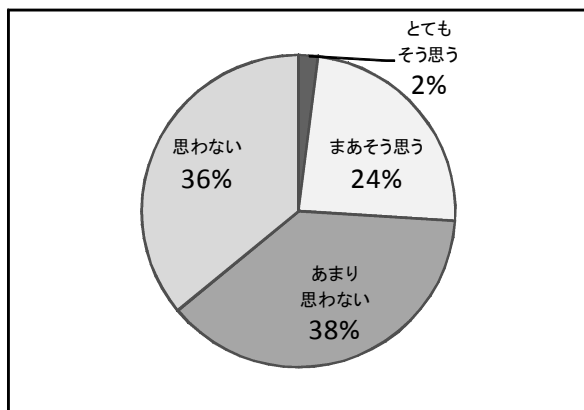


教育活動の質的改善

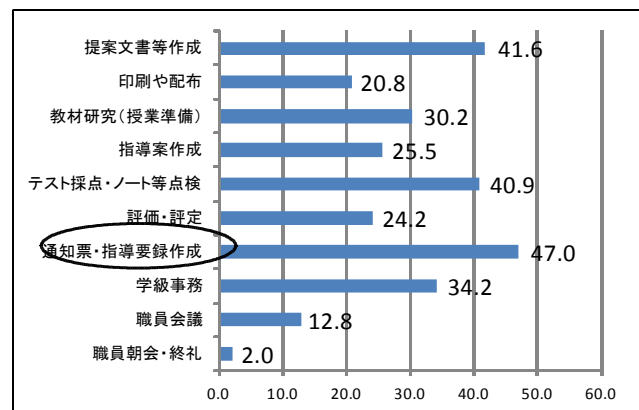
(2) 三股町の現状

本研究所では、平成23年度に教師の仕事全般についてのアンケート調査を行った。その中で「校務処理の時間が確保されていると思うか」「特に忙しいと感じる校務は何か」という質問に対して次のような結果を得た。

【校務処理の時間の確保がなされているか】



【特に忙しいと感じる校務は何か】



- 7割以上の教師が、校務処理の時間が確保されていないと感じており、その中でも、通知票、指導要録といった校務が大きな負担になっていることがわかる。

(3) 指導要録・通知票の電子化に向けて

アンケート結果から、通知票や指導要録の電子化が急務であると考え、法的根拠を明らかにしながら、電子化の取組を始めた。

- 法的根拠

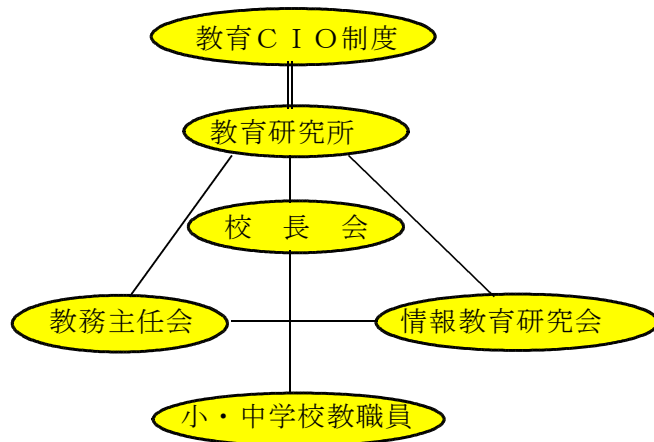
平成22年9月、「指導要録の電子化に伴う参考資料」

学習評価に関する情報の適切な管理を図りつつ、情報通信技術の活用により指導要録等に係る事務の改善を検討することも重要であること。なお、法令に基づく文書である指導要録について、書面の作成、保存、送付を情報通信技術を活用して行うことは、現行の制度上も可能である。

- 「指導要録は担任が手書きしなくてはならない」「その形式は全国的に決まっている」といった我々の先入観はまちがっており、現行制度の中でも各市町村で作成し、電子化できることがわかった。

○ 各組織との連携

指導要録や通知票の電子化は、研究所だけで進めていくことはできない。教育委員会はもちろん、校長会の意向や承認を得た上で下記のような関係組織と連携しながら進めていくことにした。



教育C I O制度とは
教育長を教育C I Oに置き町内の教育に係わる各分野の代表者(C I O補佐官)によって作られた組織。教職員のI C T機器に関する疑問や要望を吸い上げサポートをするとともに、三股町内の情報教育に関する全ての事柄に対して方針や方向を示す。

(4) 指導要録・通知票電子化までの経過

【三股町の指導要録様式2】

様式2 (指導に関する記録)					
児童氏名	学 校 名	学 年	学 級	整理番号	年 度
	サンプル小学校	5	1	1	

各教科の学習の記録		外国語活動の記録		
教科	観点別学習状況	観 点	評 価	
国語	国語に対する関心・意欲(読書)	コミュニケーションへの関心・意欲・態度		
	話をしっかり聞く能力			
	文章を書く能力			
	文章を正しく読む能力			
社会	漢字や言葉の正しく書く能力	外国語への慣れ親しみ		
	社会に対する関心・意欲			
	社会の出来事と適切に判断する能力			
	資料を正確に読み取る能力			
算数	資料に関する知識・理解	言語や文化に対する気付き		
	算数に対する関心・意欲			
	文章題など、筋道を立てて考える能力			
	計算や測定など正確に処理する能力			
理科	数や量・図形の基本的な知識	特別活動の記録	学 校 事	学 校 事
	理科に対する関心・意欲			
	科学的に事象を考える能力			
	実験や観察などを正しく行う能力			
生活	理科に関する知識・理解	学 校 事	学 校 事	学 校 事
	身近な環境や自分自身への関心			
	活動や体験を表現する能力			
	身の回りの事柄や自然の様子についての気付き			
音楽	音楽に対する関心・意欲	学 校 事	学 校 事	学 校 事
	表現の仕方を工夫する能力			
	演奏や歌唱の能力			
	鑑賞の能力			
図工	描いたり作ったりすることへの関心・意欲	学 校 事	学 校 事	学 校 事
	作品を発想したり構想したりする能力			
	作品を作り上げるための技能			
	鑑賞の能力			
家庭科	家庭科に対する関心・意欲	学 校 事	学 校 事	学 校 事
	家庭生活を工夫する能力			
	家庭生活における基礎的な技能			
	家庭生活についての知識・理解			
体育	運動や健康・安全に対する関心・意欲	学 校 事	学 校 事	学 校 事
	ルールや作戦を考えて工夫しながら運動する能力			
	保健に関する知識・理解			
	運動の技能			

総合的な学習の時間の記録		
学習活動	観 点	評 価

出欠の記録					
授業日数	出席・退席	出席すべき日数	病欠欠席	事欠欠席	出席日数

24年度

- ・ 5月 C I O補佐官会議において指導要録の電子化を確認
- ・ 5月 町教育委員会が実施容認
- ・ 6月 町校長会で実施に関わる提案の了承
- ・ 8月 様式2の形式について教務主任会に提案・検討
- ・ 8月 町の夏季教育研修会にて実施に関して全教職員に報告
- ・ 10月 町の秋季教育研修会にて全教職員に作成の方法や保存について説明
- ・ 11月 三股町における指導要録の電子化の手引作成
- ・ 2月 実施予定2校にて研修会
- ・ 2月 運用後の問題点の洗い出し

25年度

- ・ 4月 通知票の電子化決定
- ・ 5月 校長会で電子化承認
- ・ 6月 教務主任会に提案
- ・ 7月 情報教育研究会ソフト作成
- ・ 10月 校務支援ソフト導入
- ・ 11月 通知票の説明会実施
- ・ 1月 指導要録電子化説明会

Ⅶ 研究の成果と課題

1 研究の成果

- 実技研修会、使い方サンプル、授業研究会などにより、教師のＩＣＴ機器に対する関心が高まり、授業でＩＣＴ機器を使う教師が増えた。
- 使い方サンプルを作成したことで、教師のスキルや使用経験に応じた使い方を指導段階に合わせて具体的に示すことができた。
- 情報モラルアンケートにより、町内の児童生徒の実態を明らかにしたことで、教師に情報モラルの必要性を理解してもらうことができた。
- 情報教育の指針として、町内統一の情報活用能力系統表、情報モラル指導計画が完成し、町内に配付することができた。
- 各部会の協力の下、指導要録、通知票を町内で統一するとともに電子化することができた。
- 指導要録と通知票の電子化により、教師の校務の多忙感を軽減する見通しがついた。

2 研究の課題

- 教科指導におけるＩＣＴ活用が、今後も日常的になるように、ＩＣＴ機器の効果を広めていくとともにさらに活用するよう働きかけていく必要がある。
- 情報教育指導計画を各学校に広め活用してもらうために、生徒指導との連携も視野に入れながら、指導計画やソフトを使った研修を行ってもらう必要がある。
- 校務支援システムがより効果的に使われるよう、システムに関する研修を行っていく必要がある。
- 校務の情報化は、児童生徒と関わる時間を増やすためであることを教師全体に周知していかなければならない。

◇ 引用・参考文献

- ・文部科学省「小学校学習指導要領」「中学校学習指導要領」平成２０年８月
- ・文部科学省「教育の情報化ビジョン」平成２３年４月
- ・文部科学省「教育の情報化に関する手引」平成２２年１０月
- ・文部科学省初等中等教育局「指導要録等の電子化に関する資料」平成２２年９月

◇ 研究同人

所 長	宮内浩二郎（三股町教育委員会）	研究員	源 千穂（三股小学校 教諭）
次 長	山元 道弥（三股町教育委員会）	研究員	窪谷 藍弓（三股小学校 教諭）
主 幹	福永 弘幸（三股町教育委員会）	研究員	外山 繁（勝岡小学校 教諭）
主 査	湯浅かおり（三股町教育委員会）	研究員	坂元恵美子（宮村小学校 教諭）
指導員	黒木 敏行（三股町教育委員会）	研究員	西 慎吾（三股西小学校教諭）
主 任	竹森 文洋（長田小学校 教諭）	研究員	中原さおり（三股西小学校教諭）
班 長	松田 裕子（三股中学校 教諭）	研究員	杉尾 政和（三股中学校 教諭）
班 長	武本 良重（梶山小学校 教諭）		